令和4年の交通事故統計分析結果

掲示用

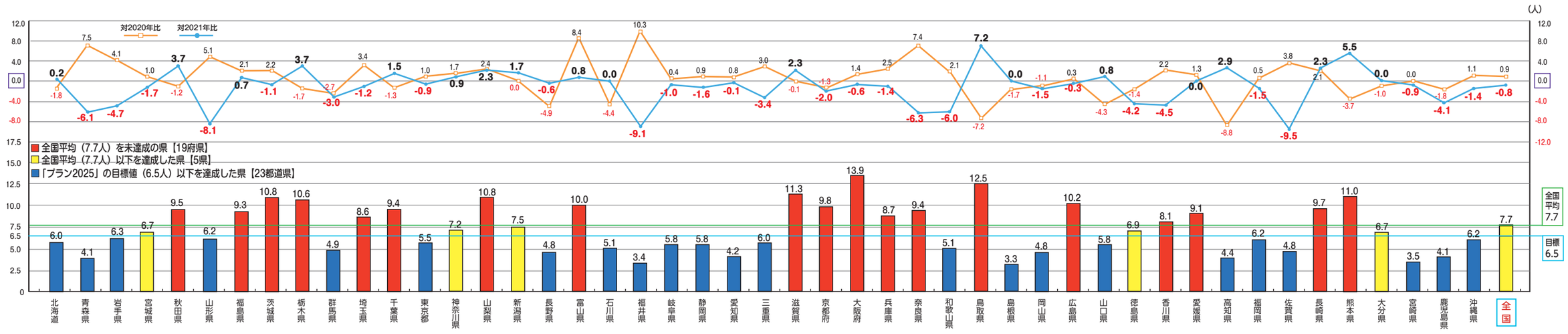
【車籍別】事業用トラックを第１当事者とする死亡・重傷事故

対象は事業用貨物自動車（軽を除く）が第1当事者となる死亡・重傷事故。なお、「車両相互」での第2当事者となる「車両」には道路交通法上の「軽車両」である「自転車等」を含む

国土交通省がトラック運送事業における令和７年度までに達成すべき目標値を「総合安全プラン 2025」として公表したことを受け、全日本トラック協会では、「トラック事業における総合安全プラン 2025」を定めて令和７年度までの目標を設定。この達成を目指して各種事故防止活動に取り組んでいます。

「トラック事業における総合安全プラン 2025」目標値：車両台数１万台当たりの死者数と重傷者数の合計

「プラン 2025」における各都道府県（車籍別）の共有目標として、「事業用トラック（軽貨物を除く）を第１当事者とする死者数と重傷者数の合計を車両台数１万台当たり『6.5 人以下』とすることを掲げましたが、令和４年は最終的に「7.7 人」となり、目標達成には至りませんでした。



※死亡・重傷者事故件数は事業用貨物自動車が第１当事者となるものであり、軽自動車によるものを除く〈出典：(公財）交通事故総合分析センター〉

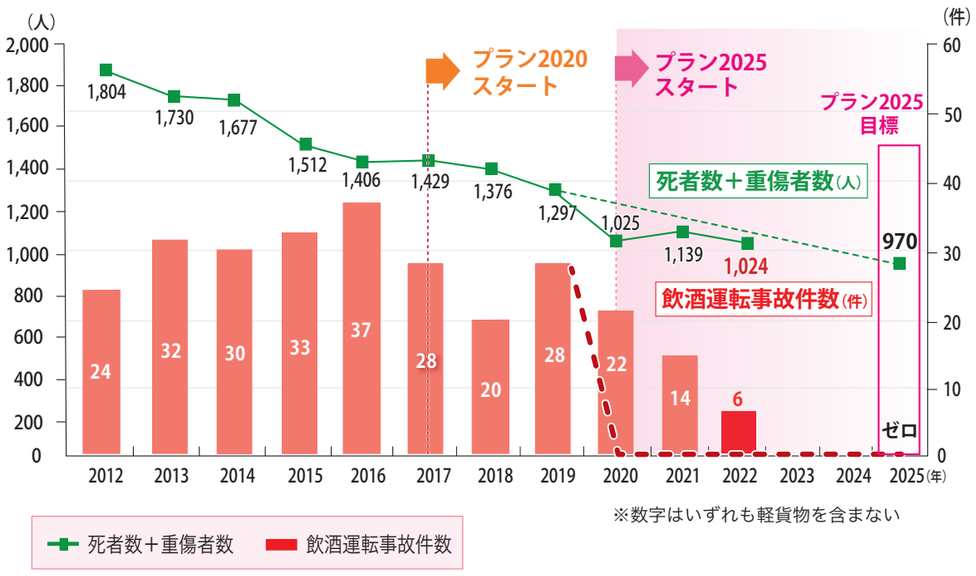
※車両台数はトレーラおよび軽自動車を除く営業用貨物自動車の保有台数（2022 年 12 月末現在）〈出典：(一財）自動車検査登録情報協会〉

「プラン 2025」数値目標と現況

令和４年中の死亡・重傷事故の合計件数は 959 件、死者数・重傷者数の合計は 1,024 人で、「トラック事業における総合安全プラン 2025」の目標である「970 人」は未達となっている。

事業用トラック１万台当たりの死者数と重傷者数の合計は 7.7 人で、目標である「6.5 人」を 1.2 人上回った。

飲酒による人身事故件数は６件と、減少傾向にはあるものの飲酒運転根絶には至っていない。

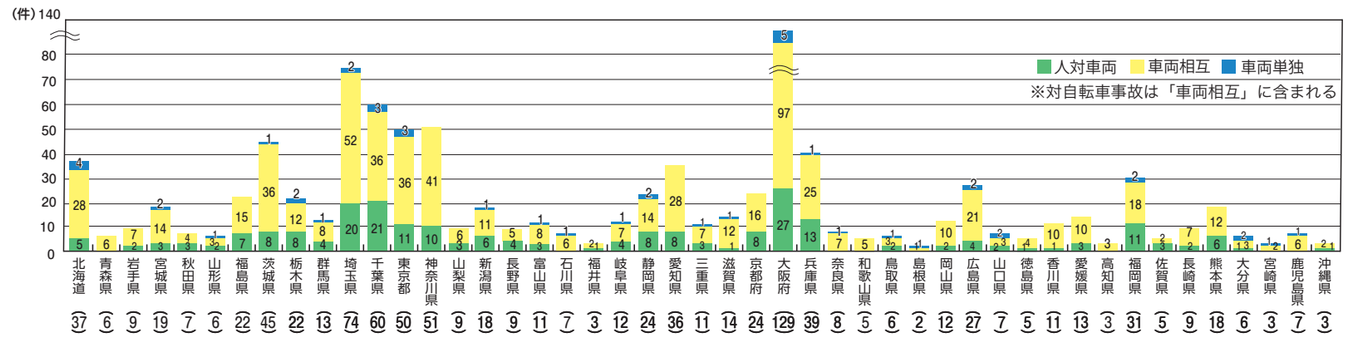


出典：警察庁「交通事故統計」および(公財)交通事故総合分析センター「交通統計」

車籍別死亡・重傷事故の発生状況

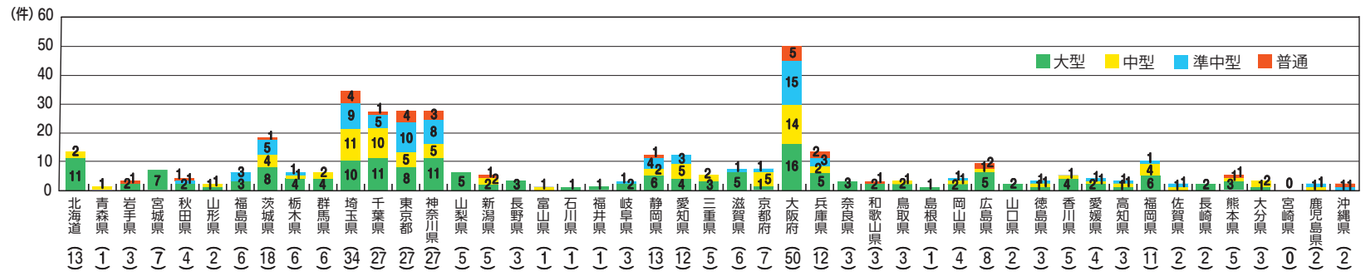
●事故類型別

死亡・重傷事故を事故類型別でみると、「車両相互」が多い傾向にあり、事故発生件数の多い順は、「大阪府」、「埼玉県」、「千葉県」、「神奈川県」、「東京都」、「茨城県」、「兵庫県」となっている。



●交差点事故の車種区分別（追突を除く）

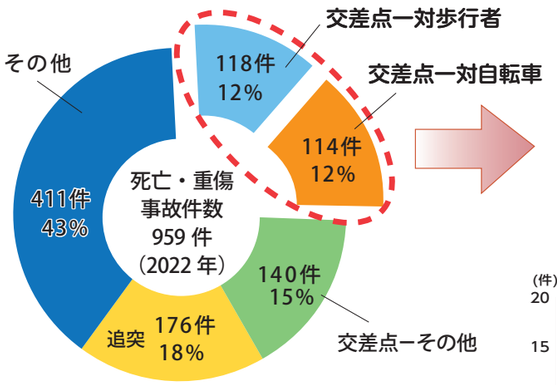
交差点での事故件数が最も多いのは「大阪府」、「埼玉県」と続き、車種区分では「大型車」が全体の約半数を占める。



カッコ内は合計値　　出典：(公財）交通事故総合分析センター

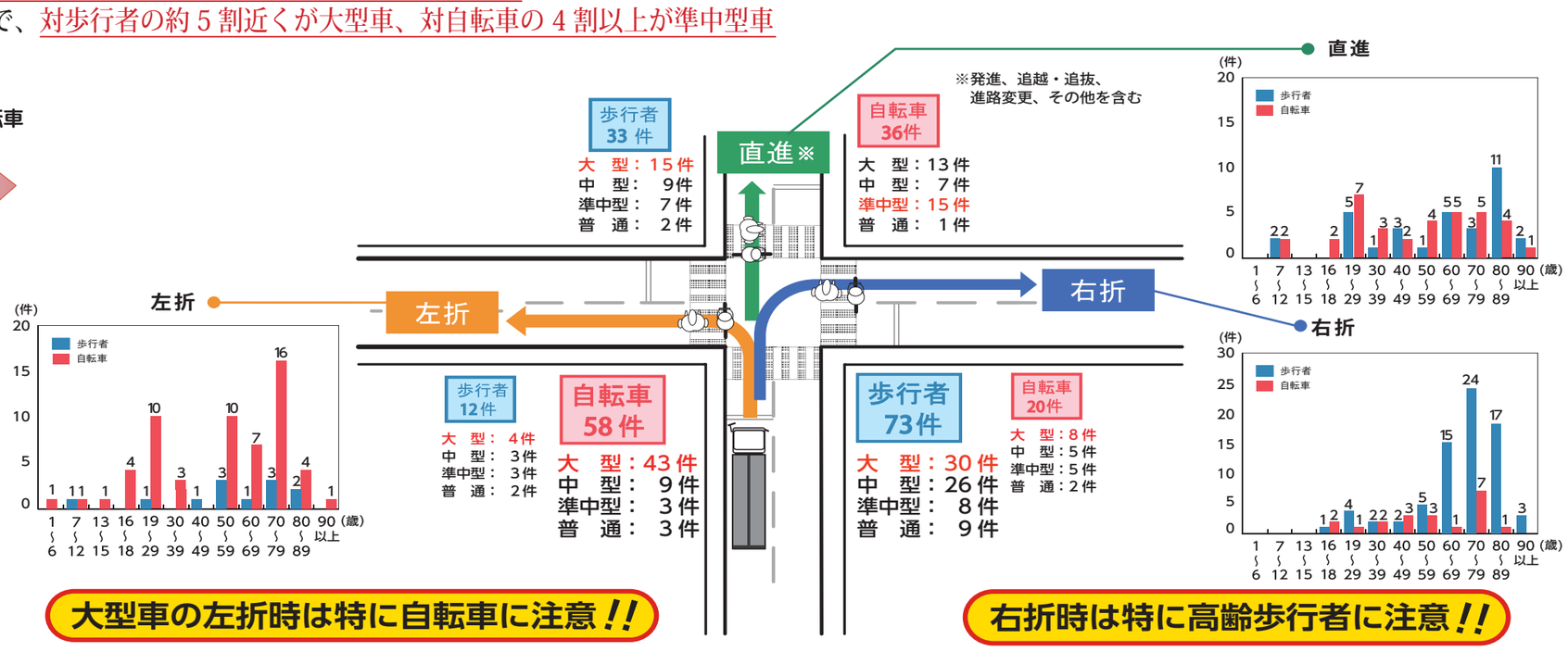
交差点における死亡・重傷事故（対歩行者・対自転車別）の発生状況

- 事業用トラックが第１当事者となる交差点における対歩行者、対自転車の死亡・重傷事故（232 件）は、追突事故（176 件）の約 1.3 倍
- 「**左折時**」：８割以上が対自転車（58 件）で、大型車が多く、対自転車の７割以上、対歩行者の３割以上
- 「**右折時**」：８割近くが対歩行者（73 件）で、大型車が多く、対歩行者、対自転車ともに４割
- 「**直進時**」：５割以上が対自転車事故（36 件）で、対歩行者の約５割近くが大型車、対自転車の４割以上が準中型車



車両区分の解説

大　型：車両総重量 11t 以上
中　型：7.5t 以上 11t 未満
準中型：3.5t 以上 7.5t 未満
普　通：3.5t 未満
※軽自動車は含まない



出典：(公財）交通事故総合分析センター